



## 学力向上を一層推進するために

～令和4年度新潟市学力実態調査(CRT)の結果を受けて～

1月に理科と英語を実施し、3月初旬に各校へ結果が送付されました。  
この調査は次のことを目的として実施しています。

- ①実施対象の生徒の学力実態を把握し、学力定着の改善を図ること
- ②授業改革を推進すること

上記の目的に照らし、各校で実態把握と分析が進んでいることと思います。

そこで、各校での取組の一助になればと考え、下に各教科の課題と取組例をお示しました。  
ご活用ください。



### 理 科

今回の調査で、全国平均と大きな差があったのは、「粒子」領域でした。  
＜市全体で課題が見られた問題の一例＞

問題の内容	問題番号	観点	問題のねらい	新潟市正答率	全国正答率	市と全国の差
物質の成り立ち	1(2)	知・技	水によって塩化コハルト紙の色が変化することを理解している。	49.1	59.7	-10.6
		知・技	炭酸水素ナトリウムと、炭酸水素ナトリウムを加熱してできた物質の性質を理解している。	34.0	40.6	- 6.6
化学変化と物質の質量	3(1)	思判表	銅と酸素の化学変化を表す化学反応式を修正できる。	20.8	28.2	- 7.4
	3(3)	思判表	実験で還元された物質を指摘できる。	37.7	49.8	-12.1
	3(4)	知・技	還元によって起こる現象を理解している。	36.0	45.8	- 9.8

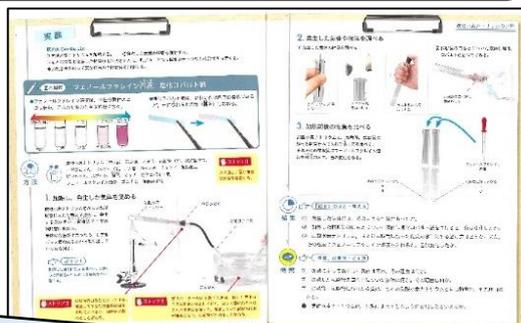
特に、「物質の成り立ち」と「化学変化と物質の質量」について、知識・技能が十分に定着するように指導し直すとともに、指導の在り方についても工夫していきましょう。

Point



【取組例】教科書や映像教材等を活用し、「知識」の内容を確認する

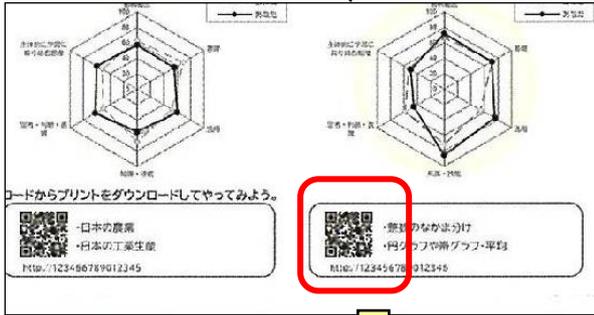
学校で



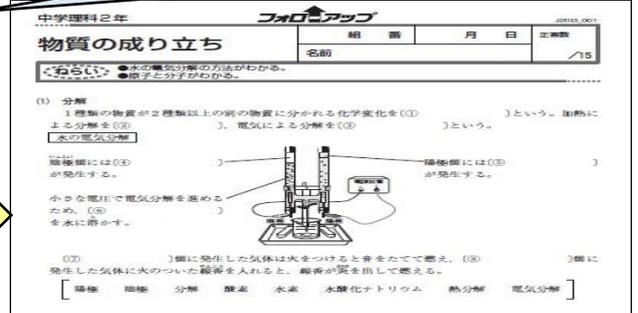
「ただ読ませる／観せる」のではなく、途中で「この後どうなったかな?」「これを何というのかな?」等、学習済みのことを生徒が思い出せるように問い掛けていくと効果的です。

家庭で

生徒配付用の「個人票」



赤枠部分の QR コードを読み込むと、個々の実態に応じた復習用ワークシート (PDF) がダウンロードできます。家庭学習等で取り組ませることも考えられます。



教科書にも、章ごとに「Can-Do List」ページがあり、赤枠部分の QR コードを読み込むと、復習用ページを開くことができます。授業だけではなく、家庭学習で取り組むよう促すことも有効です。

Point

【取組例】「仮説」「計画」「考察」等の過程で学習済みの知識・技能を活用することを充実させる

☆例えば、「還元」の場面で... 見通しがもてない場合には、酸化や酸化銅について振り返らせましょう。

**見通し**

酸化銅から銅を取り出すためには、どんな物質が取り除かれるとよいでしょうか。

酸化銅は  $\text{CuO}$  だから、O が取り除かれればいいはずだ。

O を取り除く方法を今まで学習したことから探してみましょう。

今まで学習したことを意識して振り返る場を設定すると知識は定着します。

**仮説**

「製錬」では、炭素を加えて加熱して鉄鉱石から鉄を取り出していたよね。これが使えないかな。

「加熱する」ということは、「酸化する」ということだよ。炭素 (C) を加えて加熱すれば、炭素が酸化して  $\text{CO}_2$  ができるはずだね。

**計画**

それなら、酸化銅に炭素を加えて加熱して、二酸化炭素ができたかを確認めれば*いい*ってことだね。

それだけじゃなくて、ちゃんと銅になったかも確かめた方がいいんじゃないかな。

じゃあ、二酸化炭素と銅ができたかを確認めれば*いい*ね。二酸化炭素と銅であることを確かめる方法って前にやったよね。

それだけじゃなくて、ちゃんと銅になったかも確かめた方がいいんじゃないかな。

つづく...

## 英語

今回の調査で、全国平均と大きな差があったり無答率が高かったりしたのは、「書くこと」領域でした。

〈市全体で課題が見られた問題の一例〉

問題の内容	問題番号	観点	問題のねらい	新潟市正答率	全国正答率	市と全国の差 (無答率)
場面に 応じて書く 英作文	10(1)	思判表	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている(相手に提案する)。	17.5	14.7	+ 2.8 (41.4)
	10(2)	思判表	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている(場所をたずねる)。	7.0	10.0	- 3.0 (44.4)
3文以上 の英作文	11	思判表	自分の将来の夢について、英文を正確に書いている。	41.0	51.9	- 10.9 (22.9)
		思判表	自分の将来の夢について、まとまった内容で紹介する英文を相手に伝わるように書いている。	33.8	42.2	- 8.4 (22.9)

「基本的な語順」は十分に理解できているという結果が出ていることから、今後は、これまで学んだ表現がいろいろな場面で使えることを、生徒に自覚させることが大切です。



【取組例】場面を設定し、どんな表現が使いそうかを話し合う活動を設定する

☆例えば、「困っている人を手伝おうとする」(Talk)場面で…



今まで学習した表現を使って、困っている人に手伝いを申し出てみましょう。



「Can～?」は「～しましょうか」だから「Can I help you?」でどうかな。

だったら、「Shall I help you?」でもいいかも。

「何か手伝えますか」と聞けばいいから、「What can I do for you?」はどうかな。

「Do you need some help?」とも言えそうだね。

学習した表現を使えば、新しい表現もいろいろ考えられるね。



1つの表現を「覚える」のではなく、今まで学習した表現を想起して、表現を考える経験を多くさせましょう。

☆例えば、「クラスの人気のあるものを調べてレポートを書く」(Write)場面で…

好きな映画のジャンルを調べたら、アクション映画が1番だったね。



僕は、「私のクラスの人たちは～」だから、「Students in my class like action movies the best.」としたよ。

私は、「私たちのクラスは～」にして、「Our class likes action movies the best.」と書いてみたよ。

どちらの表現でも伝わりそうだね。

互いの表現に触れさせることで、多様な表現ができることを自覚していきます。



ここまで課題を取り上げてきましたが、理科では「エネルギー」領域で全国平均を上回り、また、英語では昨年度課題があった「聞くこと」領域で改善がみられました。

日ごろから目の前の生徒一人一人のために全力で授業を行っていただいている成果と受け止めています。

生徒の学力向上のための方策として、この「Support」の内容を参考にいただき、日々の授業改革を推進していただきたいと思います。